COLUMN ｜ 業務効率化

# 電帳法対応をAIと一緒に終わらせる

クラウド会計とAI-OCRで変わる中小企業の経理

株式会社DnD ／ 2026年9月21日

**この資料の要点**

- 電子取引データ（メール添付の請求書など）の電子保存は2024年から完全義務化。紙への印刷・保存は要件を満たさない。
- AI-OCRとクラウド会計の自動仕訳機能を組み合わせると、書類の読み取りから仕訳・電子保存までを半自動化できる。
- スタートはクラウド会計ソフトの標準OCR機能から。専用システムなしでも3ステップで法的要件を満たす体制を構築できる。

## 電帳法で「何が変わったか」

電子帳簿保存法（電帳法）の2022年改正により、電子的に受け取った取引書類（メール添付のPDF請求書など）は電子データのまま保存する義務が生じ、2024年1月から猶予措置なしで完全施行されました。以前の「印刷して紙で保管」という運用は非適合となります。

保存要件のポイントは3つです。

- **電子取引データの電子保存義務化**：電子で受け取った書類は電子データのまま保存。
- **検索要件**：日付・金額・取引先名の3項目（または2項目）で検索できる形式で保存。
- **改ざん防止措置**：タイムスタンプの付与、または訂正削除記録が残るシステムでの保存、もしくは事務処理規程の整備のいずれか。

> 要件の中身を正しく理解すれば、クラウド会計ソフトの標準機能だけで対応できるケースがほとんどです。

## 手作業対応の会社が抱える3つのリスク

### ①「印刷して保管」を続けているリスク

電子で受け取った後に印刷して紙のファイルに綴じる運用は、2024年1月以降の電子取引データ保存要件を満たしていません。電子データを消去・上書きしてしまうと、税務調査の際に問題になる可能性があります。

### ② ファイル命名規則の運用コストとミス

「20260921_○○株式会社_110000円.pdf」のようにファイル名に日付・取引先・金額を含める手動運用は、1件あたり1〜2分かかり、ミスによる検索漏れのリスクも生じます。

### ③ 税務調査での確認が標準化されつつあるリスク

2026年度以降の税務調査では電帳法対応状況の確認が標準的なチェック項目に含まれます。違反が発覚した場合、青色申告の承認取り消しや重加算税の加重措置（10%上乗せ）が課される可能性があります。

## AI-OCRとクラウド会計が変える「受け取り→保存」の流れ

### AI-OCRの役割

AI-OCRは紙・PDFの請求書から取引先名・日付・金額などを自動抽出します。2026年現在、主要クラウド会計ソフト搭載のAI-OCRは印刷書類で95〜99%の精度で読み取れます。読み取りデータがクラウド会計のデータベースに直接登録されるため、ファイル命名規則による手動管理が不要になります。

### 自動仕訳機能の役割

freee・マネーフォワード等のクラウド会計ソフトは、過去の仕訳履歴をAIが学習し、新しい請求書から適切な勘定科目を自動提案します。担当者は提案を確認して承認するだけで、入力作業が大幅に省略されます。

### タイムスタンプの自動付与

主要クラウド会計ソフトは書類データを取り込んだ際にタイムスタンプを自動付与します。改ざん防止要件が自動的に満たされ、専用のタイムスタンプサービスの別途契約は不要です。

## 3つのステップで始める電帳法対応の自動化

### Step 1：クラウド会計の標準OCR機能で受け取りを一本化する

freee会計の「書類BOX」、マネーフォワードクラウドの「証憑管理」を使い、電子で受け取った請求書・領収書をクラウド会計ソフトへ集約します。この段階で電子保存要件と検索要件の大部分が満たされます。

### Step 2：自動仕訳の精度を上げ、確認作業を最小化する

最初の1〜2か月は仕訳の確認と修正を丁寧に行い、「ルール設定」機能で取引先と勘定科目の紐付けを登録します。慣れると月の請求書処理時間が以前の3分の1以下になるケースもあります。

### Step 3：バックアップと事務処理規程を整える

保存期間は原則7年。外部ストレージへの定期バックアップを設定し、国税庁公開のサンプルをベースに社内の事務処理規程を1〜2ページで整備しておくと、税務調査時の証拠になります。

株式会社DnDでは、電帳法対応を含む経理業務の自動化・効率化支援を承っています。

「どこから手をつければいいかわからない」という段階からご相談ください。

https://dnd-inc.jp/contact.html

© 2026 DnD Inc. — Distill n Develop ／ https://dnd-inc.jp/blog/ai-dencho-keiri-automation.html